

テーマ：キリストに全てを委ねた歩みとはどのようなものか？

●炎のランナー：エリック・リデル

○キリストの支配に委ねた歩み：“主の御名”のために生きる(17)

1. 意味：

エバ＝「さて、人は、その妻の名をエバと呼んだ。それは、彼女がすべて生きているものの母であったからである。」(創世記 3:20)

アブラハム＝「あなたの名は、もう、アブラムと呼んではならない。あなたの名はアブラハムとなる。わたしが、あなたを多くの国民の父とするからである。」(創世記 17:5)

ナバル＝「ご主人さま。どうか、あのよこしまな者、ナバルのことなど気にかけてください。あの人は、その名のとおりのおり男ですから。その名はナバルで、そのとりの愚か者です。」(1サムエル記 25:25)

※2 コリント 5:18-20

「神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。」

「使節であるという考えには、多くのことが含まれています。使節は聴衆を喜ばせるためにではなく、彼を遣わした王を喜ばせるために話します。己の権限で話すのでもなければ、自分の意見や要求も意味を持ちません。ただ自分に託された言葉を伝えるのです。しかし、使節は単なる伝令係でもありません。代表者であり、自国の名誉と評判がその手に委ねられているのです。」

2. 範囲：

※使徒 7:22

「モーセはエジプト人のあらゆる学問を教え込まれ、ことばにもわざにも力がありました。」

※ルカ 24:19

「…ナザレ人イエスのことです。この方は、神とすべての民の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。」

「あるラジオ番組の司会者が『私はクリスマスとイースターはクリスチャンです。』と自身の宗教観について述べる男性について取りあげていた。その人物はキリスト教をパートタイム労働者のように考えているようだった。そして、敢えて信仰を一年に二日だけに限定しないとしても、私たちの多くはパートタイムクリスチャンのような形を取っていたりする。毎日毎秒一貫して信仰を実践するのではなく、時間と場所を選んで信仰を実践しているのだ。…イエスは日々自分の十字架を負い、わたしについて来なさいと言われていた(ルカ 9:23)。この方が十字架の上で耐えがたい残酷な死を遂げたのは、私たちがいつイエスに従いたいかを選べるようにするためではない。なぜ、私たちは時に背を向け、救い主に手を引けと言わんばかりの態度を取るのだろうか？たいていの場合、それは聖書の明確な教えに従わないからだ。例えば、『絶えず祈りなさい』(1テサロニケ 5:17)ということ拒めば、私たちは自己満足に陥ってしまう。全てを『主に対してするように、心からする』(コロサイ 3:23)ことをやめれば、私たちは自分のために生きようになる。イエスに従うというのは、フルタイムの献身である。パートタイムのクリスチャンになれると考える罠にはまってはならない。」

※1 コリント 6:19-20

「あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。」

※1 コリント 10:31

「こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。」

「私たちの生活は、私たちの言動の全てがキリストの権威によって完全に支配されるようであればならない。その目的は、主の栄光を仰ぎ見ることなのである。」(ジャン・カルヴァン)

※2 コリント 5:8-9

「私たちはいつも心強いのです。そして、むしろ肉体を離れて、主のみもとにいるほうがよいと思っています。そういうわけで、肉体の中にあろうと、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。」

3. 動機